

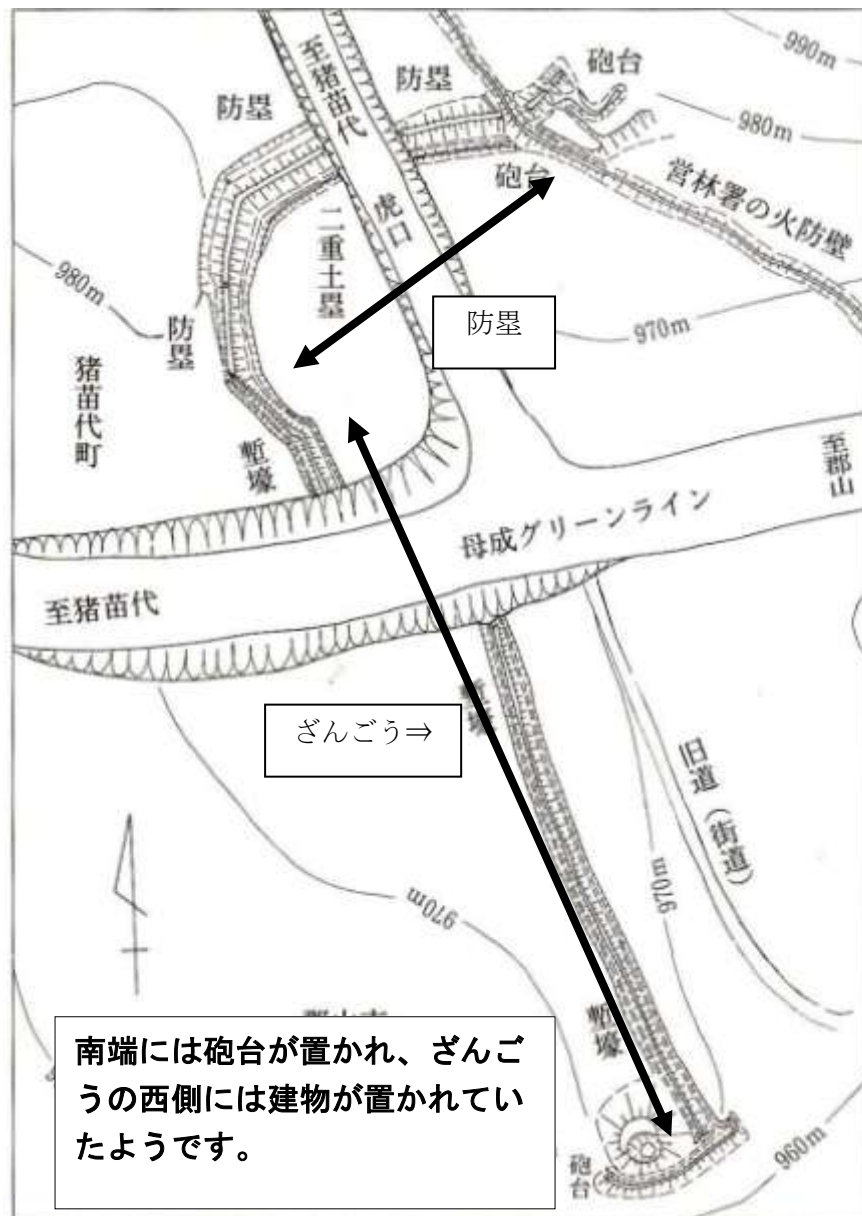


1600年に築かれた母成峠防塁跡



1868年に戊辰戦争で築いたざんごう跡

1600年に築かれた防塁は、土塁も高く、空堀も広いものです。
 1868年に築かれた塹壕（ざんごう）は、浅く土塁も低いものです。
 この陣地は、会津藩と旧幕府軍、新選組らが築いたものです。



母成峠遺構図 一六〇〇年・一八六八年改修 猪苗代町・郡山市

猪苗代町と郡山市熱海町との境に位置する母成峠。峠頂上には、母成グリーンラインに分断されて江戸時代の街道があります。峠には、会津藩が構築した遺構が残されています。北側の防塁は、天地人の上杉景勝・直江兼続時代に築かれた遺構で、その南に戊辰戦争時代に塹壕（ざんごう）が延び造られました。全長384メートルあります。また、営林署が築いた火防壁もあります。

参考文献「国境に造られた攻守の遺構」会津若松市史研究 石田明夫
 実測図・文責 石田明夫

南端には砲台が置かれ、ざんごうの西側には建物が置かれていたようです。